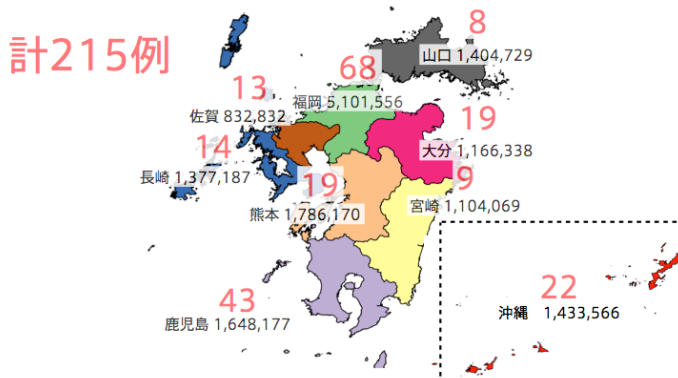


## 最近5年間の九州・山口・沖縄地区のプリオン病 サーベイランス解析結果

研究分担者：九州大学病院 松下 拓也

### 2012-2016年 各県の症例把握数

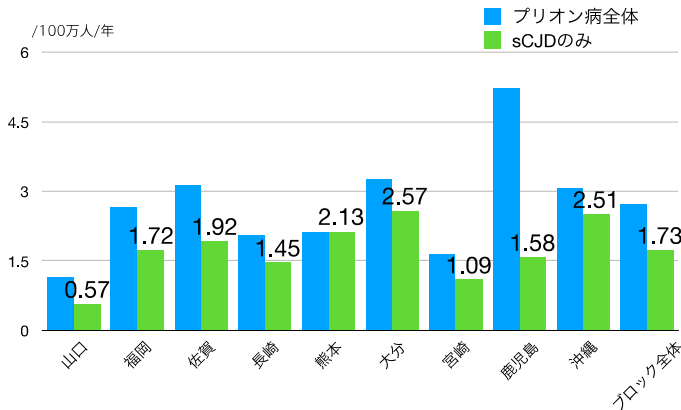
### 疾患タイプ別頻度



県	把握数	sCJD	dCJD	fCJD	GSS	分類不能
山口	8	4		4		
福岡	68	44	1	15	8	
佐賀	13	8		1	4	
長崎	14	10		3		1
熊本	19	19				
大分	19	15		4		
宮崎	9	6			3	
鹿児島	43	13		4	26	
沖縄	22	18		4		
<b>計</b>	<b>215</b>	<b>137</b>	<b>1</b>	<b>35</b>	<b>41</b>	<b>1</b>
		(63.7%)		(16.3%)	(19.1%)	

### 2012-2016年 各県の年間把握率

### sCJDで遺伝子検査を行った症例数



県	把握数	sCJD	MM	MV	VV	計 (%)
山口	8	4	3			3 (75)
福岡	68	44	31	1		32 (73)
佐賀	13	8	5			5 (63)
長崎	14	10	2			2 (20)
熊本	19	19	4	1	1	6 (32)
大分	19	15	8	1		9 (60)
宮崎	9	6	2			2 (33)
鹿児島	43	13	6			6 (46)
沖縄	22	18	12	1		13 (72)
<b>計</b>	<b>215</b>	<b>137</b>	<b>73</b>	<b>4</b>	<b>1</b>	<b>78 (56.9)</b>

## 解説

- 2012年～2016年の5年間において、九州・山口・沖縄地区では215例がプリオン病と判断された。
- 鹿児島からGSS症例がまとめて登録されたため、鹿児島における年間把握率が高くなったが、孤発性CJDでも疾患把握率に地域差が見られた。
- 孤発性CJDにおける遺伝子検査施行率には各県で違いがみられ、疾患把握率に影響したと考えられるが、環境要因やプリオンタンパク遺伝子以外の遺伝的要因の存在も示唆される。